

# チーター



渡邊 久美子

## 日本チーター保存協会の渡邊久美子さんとのインタビュー

### なぜこのような会を立ち上げられたのですか？

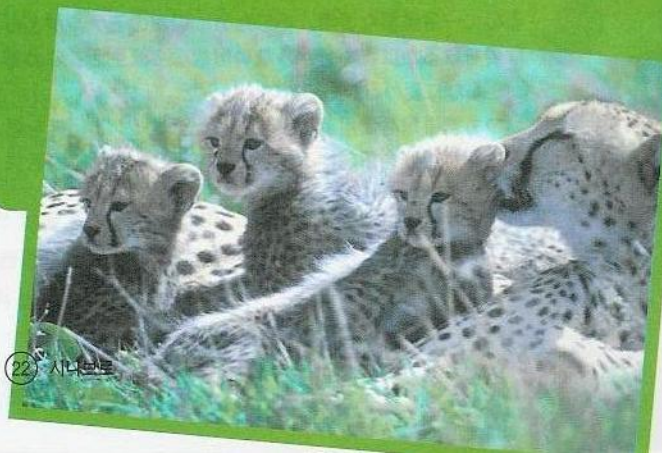
元々動物が大好きでしたが、チーターは幼い頃から別格でした。本当に物心着く前からチーターが好きで仕方なかったようです。と、言うのも、正月に親族などが集まって話をすると決まって叔母さんが「あなたは小さい頃、黄色いバスタオルにまたがってチーターちゃん！チーターちゃん！と言いながら走り回っていたねえ」と話すからです。もちろん、私は全く覚えていませんが・・・それでも、物心着いた時には当然チーターは大好きでしたし、小さい頃はアフリカで暮らすか動物園で働くんだ！とっていました。

### 子供の頃からずっとチーターの保護活動に携わっていたのですか？

いえ、動物が好きなのは変わりなかったのですが、ある程度の年頃になって来たら、何か独立できるような仕事がしたいと思ったのです。その1つが韓国に関係した仕事でした。19歳の頃に韓国の民話を聴いて絶対に韓国と日本はVISA無で行き来出来る時代が来ると思い、韓国に留学しました。帰国してからは翻訳の仕事を始め最近では字幕作成も少しずつするようになっていました。つい最近までは全く保護活動という物にも目が行きませんでした。

### それではいつ頃からチーターの保護活動に取り組みられたのですか？

2002年に母が癌になり、余命宣告をされたのですが、当時私が手掛けていた主な翻訳の仕事は映像翻訳でメ切りがタイトなものでしたので、母の残り僅かな時間を一緒に過ごす為に、暫く翻訳を休まなくてはならなくなりました。ある時、2002年のワールドカップや折からのアジアブーム等で私がようやく自分の活躍出来る時が来たのに・・・と仕事からの未練を断ち切れないうのを見た母が「昔は動物の好きな心の優しい子だったのに・・・」という一言をポツリと呟き、母の命より仕事を優先させようと考えていた事に気付いた私は愕然としました。



そのような事があってから暫く経って、寝たきりの状態が多くなって来た母に、せめてもと私がとても好きな映画を母にも見せようとしたのが、日本未公開映画のWalt Disneyの「チーター」でした。母のベッドサイドのTVと一緒に映画を見ながら、チーターの愛らしさ、を思い出すと同時にチーターが絶滅の危機にある事も思い出され、何か出来ないか？と思うようになりました。

それ以来、チーターに関して色々日本のチーターの保護団体を探したのですが見つからず、アメリカに世界的に有名なチーター専門の保護団体CCF (Cheetah Conservation Fund / <http://www.cheetah.org/>) を知り、チーターの為にCCFの支局を日本に作ろうと決め、母に色々相談して行く内に今までどちらかと言えば母とは仕事を巡って喧嘩が絶えなかったのが、「いつか病気が治ったら、ナミビアにチーターに会いに行こうね！」と言いつつになりました。母も元々動物が大好きな人でもありましたし、Walt Disneyの「チーター」を見たり、私からチーターの話聞く内にチーターの虜になり、私が大事にしているチーターのぬいぐるみを自分の横に置き、食事する時に「食べて見る？」とかTVでアフリカが映ると「走っておいで」と話し掛けたりしていました。

また、ある時私を枕元に呼び、「このような会をやるのであればある程度の資金がなければいけない。あなたにその為の資金を準備するから頑張らなさい」と初めて言ってくれました。

残念ながらその話をしてから2ヶ月後に、私達の夢だった、母子で一緒にナミビアの土を踏み事もなく、チーターに触る事も出来ずに母は亡くなってしまいました。必ず近い内に母の写真と共にナミビアに行こうと思っています。

今でもチーターのぬいぐるみを抱え笑っている母が私の携帯に保存してあります。

それでは最後に日本チーター保存協会 "Japan Cheetah Conservation Society" についてお聞かせください。

皆さんはチーターと聞かれたら何と答えますか？

「地上で最も足の早い動物」そうです！チーターはあらゆる地球上の生き物、陸地に生息する動物の中で一番足の速い動物です。ところが誰もが教科書や図鑑で習い知っているチーターですが、その生態などは余り知られていません。皆さんは、チーターがどのように鳴くかご存知ですか？